

ツマジロクサヨトウによる 飼料用トウモロコシへの被害を初確認しました ほ場を見回り、早期発見に努め、被害防止を図りましょう

- ・県南部で栽培されている飼料用トウモロコシで9月1日にツマジロクサヨトウの疑義幼虫が発見されました。農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、9月2日にツマジロクサヨトウであることが確認されました。
- ・これまで県内では、フェロモントラップにおいてツマジロクサヨトウの雄成虫が確認され(『特殊報第1号(令和2年8月12日発行)』)、本種幼虫による農作物(スイートコーン)への被害も確認されています(『防除情報第5号(令和2年8月20日発行)』)。
- ・幼虫はトウモロコシ(実)の先端部を食害し、虫ふんとともに確認されました(写真1)。
- ・ほ場をよく見回り、幼虫の食害痕や虫ふんなどの有無を確認し、早期発見と被害拡大の防止に努めてください。

防除のポイント

(1) 早期発見

播種が遅い作型では今後も被害が発生する可能性があるので注意してください。ツマジロクサヨトウは葉の柔らかいところや未成熟な雌穂を好んで加害します。ほ場を定期的に見回り、幼虫の食害痕や虫ふんなどの有無を確認し、早期発見に努めましょう。

(2) 早期防除

発生ほ場では、農薬リスト(表1)を参考に農薬による防除を実施してください。散布にあたっては、葉しょう基部等に潜り込んでいる幼虫にも届くようしっかりと散布してください。なお、周辺作物への農薬の飛散(ドリフト)には十分注意してください。

(3) 農薬による防除が困難な場合

被害の拡大や分散等を防止するため、収穫が可能な場合は、速やかに収穫・調製を実施してください。

(4) 収穫後の対応

発生ほ場では、収穫後に残った株や土壌中に幼虫やさなぎが残存している可能性があるため、収穫後は速やかに複数回の耕うんを行ってください。

ツマジロクサヨトウは、スイートコーン、飼料用トウモロコシ、ソルガムなど広範囲な農作物を加害しますので、ほ場をよく見回り、幼虫の早期発見に努めましょう。
本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、農業改良普及センターまたは病害虫防除所に御連絡ください。



写真1 雌穂先端部の幼虫



写真2 ツマジロクサヨトウ幼虫



写真3 幼虫の特徴1:頭部の「逆Y字」紋



写真4 幼虫の特徴2:尾部の黒斑

表1 ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧(飼料用とうもろこし)

※表の農薬は、現在のところ、ツマジロクサヨトウに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うための農薬として使用できます。記載されている希釈倍数、使用方法、使用時期、散布量、回数を守ること、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数・使用量	使用回数
BT水和剤(14459,21694,21695)	散布	発生初期 但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1,000倍	—
BT水和剤(19885,20653,21944)	散布	発生初期 但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2,000倍	—
カルタップ水溶剤	散布	収穫 21 日前まで	100～300L/10a	1,000倍	2回以内
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫 90 日前まで	100～300L/10a	6,000倍	3回以内
MEP乳剤	散布	収穫 30 日前まで	100～300L/10a	2,000倍	2回以内

注)令和2年9月1日現在の登録内容。実際の農薬散布にあたっては最新情報を確認してください。

農林水産省HP「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」

https://www.maff.go.jp/j/syoutan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8960 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp